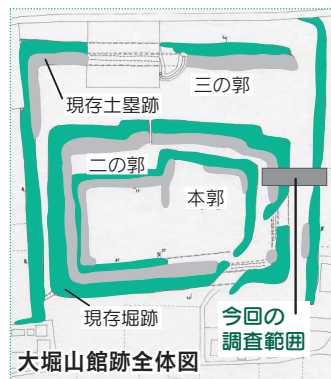


## 大堀山館跡の発掘調査②

おおほりやまやかたあじ  
下広谷にある県指定史跡の大堀山館跡は、一辺約二百メートル、三重の堀と土塁に囲まれた戦国時代の城跡です。

史跡の全体像を解明するため、昨年度から発掘調査を行っています。昨年度は本郭の東側と二の郭の一部で調査を行い、城が造られた年代を示すと思われる十五世紀後半の土器・陶器、中国製の茶入れ、土製さいころ、土壁などが出土しています。



三の郭と土塁

今年度は二の郭と三の郭の堀を中心にその周辺と、いざばん外側の堀の一部を調査しました。城跡を覆っている表土は薄く、十五センチから二十センチほど掘るとローム面が現れます。深く埋まっていると思われた堀の部分でも二十五センチほど掘ると堀底が確認され、掘り直した様子も見られませんでした。遺物は、昨年度の物と同年代の土器・陶器が出土しました。堀が掘り直された様子がないことから、十五世紀後半に城が造られ、使用された期間は短かったようです。建物跡などは確認されなかったものの、三の郭で通路と考えられる硬くなった面が見つかっています。

今年度の調査では以上の成果が得られました。出土した遺物は少なく、築造者、より細かい築造時期、使用期間などについては、まだはっきりとしません。今後の発掘調査の進展によって、説明が期待されます。

## どんぐり

編集後記

昨年ほとんど桜が咲いていない中行われた、新河岸川桜まつり。ことしは開花が例年より早いとか。予想どおりなら、ちょうど見ごろになるはずです。満開の桜と晴天に、恵まれますように▶3月10日発行の広報で紹介した握津地区。3月31日で、300年を越える歴史に1つの終止符が打たれます。取材を通じて感じたのは、住んでいる方がとても親切だったこと。移転のための準備で忙しいにもかかわらず、作業の手を休め、何時間も取材に協力いただきました。握津の皆さん、ほんとうにありがとうございました▶生まれたときからずっと住んでいた地。離れる寂しさを、こう話してくれた方がいました。「ここから見える景色は、遠くはどんどん変わっても、近くはほとんど変わらなかったよ。朝起きて、寝巻きのまま、家の周りの畑を見回るのが日課だった。新しい住まいでは、そんなことできないだろうね。」



## 世界の国から川越で……

みんなが  
暮らしやすい  
まちを  
つくるために

### 外国籍市民会議の皆さん

写真左から、蔡佳蓉さん(台湾)、ペーリ・ドウエルさん(米国)、セン・ウェン・ピングさん(マレーシア)、朴香珠さん(韓国)、楊雪さん(中国)、焦雁さん(中国・前)、黄斌さん(中国)、中島スパタラーさん(タイ)、ムカワ・ヘルミさん(チュニジア)。

外国籍市民の立場から、住みやすいまちづくりのための提案をしていく場が外国籍市民会議です。3月4日、この会議が開かれ、広報川越の英訳版を発行するための話し合いなどが行われました。

\*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは14ページ・18ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141